

日本サッカーは 何を学んで 何を継承していくのか

専修大学スポーツ研究所公開シンポジウム

サッカージャーナリスト

後藤健生

Takeo Goto



元NHKエグゼクティブアナウンサー・法政大学教授

山本浩

Hiroshi Yamamoto



5大会連続

サッカー日本代表コンディショニングコーチ

早川直樹

Naoki Hayakawa



元日本代表・サッカー解説者

北澤豪

Tsuyoshi Kitazawa



アトランタオリンピック韓国代表・専修大学准教授

李宇諤

Lee Wooyoung



2018年11月14日(水) 開場14:40~

■日時・場所 2018年11月14日(水)14:50~(4・5限目) 専修大学生田キャンパス10301教室

■内容

<第1部> 基調講演 15:00~15:30 対談 15:30~16:10

基調講演:早川直樹氏(サッカー日本代表コンディショニングコーチ)

「日本サッカーはW-Cupで何を学び、何を継承していくのか —5名の代表監督を支えて—」

対談:早川氏×北澤豪氏(元サッカー日本代表)

「日本代表戦を振り返って」 司会:山本浩氏(元NHKエグゼクティブアナウンサー、法政大学教授)

<第2部> シンポジウム 16:30~18:00

「代表経験から次世代へ伝えられること」

早川直樹氏×後藤健生氏(サッカージャーナリスト)×北澤豪氏×李ウヨン氏(元サッカー韓国代表、専修大学准教授)

総合司会:山本浩氏

主催:専修大学スポーツ研究所

協力:(株)バスクリン

問い合わせ:sports@isc.senshu-u.ac.jp 044-911-1032



日本サッカーはW-CUPで何を学び 何を継承していくのか

今年(2018年)は1993年にJリーグ(プロサッカーリーグ)が開幕してから25年と四半世紀が過ぎようとしている。そして、1998年以来6大会連続のワールドカップの本大会に出場した。また、今回のロシアで開催されたワールドカップでは、2002年に日韓で開催された大会以来4大会ぶりのベスト16に駒を進めることによって、国内は大変盛りあがることとなった。ただ、本大会直前に代表監督が交代するなど、結果以外の部分では、メディアも巻き込み様々な議論を呼び起こすこととなった大会ではある。

本公開講座では、2010年の南アフリカ大会後に「W-Cup Soccer 南アフリカ大会は日本に何を遺したか」を開催した。そこでは、内山俊哉氏の司会によって、中西哲生氏、後藤健生氏、宇都宮徹吉氏の3名のシンポジストを迎え、テーマにそれぞれの視座からシュートあり、スルーパスありの激しい論戦が繰り広げられた。その後、8年を経過した今回は、第1部で2002年大会から5大会連続でSAMURAI BLUEのコンディショニングコーチとして帯同した早川直樹氏に基調講演をしていただき、各大会を検証する。基調講演後、これまでに何を学んできたかを検証する。その後、早川氏と元日本代表でサッカー解説者の北澤豪氏との対談を、今大会を元NHKエグゼクティブアナウンサーの山本浩氏の司会で振り返ってもらおう。そして第2部でも、山本浩氏の名司会によって、早川直樹氏、北澤豪氏、後藤健生氏、本研究所から李宇諤所員の4名を交えて、各大会から何を学び、何を継承していくのかを大いに語ってもらおうと思う。サッカーワールドカップを題材としたこのシンポジウムから、これからの日本サッカー、そして日本スポーツへのレガシーを参加者とともに考えたい。



-----講師-----



早川 直樹 (はやかわ なおき) 5大会連続サッカー日本代表コンディショニングコーチ

1963年東京都出身。東京都立南多摩高校卒業後、メディカルトレーナー専門学校と東京衛生学園専門学校に進む。日本女子代表チームトレーナー、東日本JR古河サッカークラブ(当時)トレーナー、ガンバ大阪トレーナー、ジェフ・ユナイテッド市原(当時)アスレティックトレーナーを経て、1999年より日本代表のアスレティックトレーナーとして働く。2010年より日本代表コンディショニングコーチ。1999年～日本代表、2014年 U-21日本代表、2015年 U-22日本代表、2016年 U-23日本代表に帯同。公益財団法人日本体育協会公認アスレティックトレーナー、JFA公認サッカーB級コーチライセンス。現在は、日本サッカー協会フィジカルフィットネスプロジェクトリーダーを務める。



山本 浩 (やまもと ひろし) 元NHKエグゼクティブアナウンサー・解説委員、法政大学教授

1953年島根県出身。1976年日本放送協会(NHK)入局、福島放送局に配属。スポーツ実況アナウンサーとして32年間活躍。2000年実況アナウンスからスポーツ界の問題解説に軸足をシフトし、NHK解説委員に就任。2009年3月にNHKを退職。現在はアナウンサー時代から研鑽を深めていた国内スポーツ発展のための環境整備や地域・社会との融合について手にした体験や視点を活かし、法政大学スポーツ健康学部でコミュニケーション論、スポーツメディア論を教える。2020年東京五輪招致活動では、来日したIOC評価委員への国内プレゼンテーションを務めるなど東京五輪招致活動を陰で支えた功労者の1人である。現在は法政大学スポーツ健康学部教授を務める傍ら、Jリーグ理事を含む様々なスポーツ団体の役員として東京五輪以降のスポーツ発展普及の為に尽力、メディアへの出演や競技団体のシンポジウムに駆り出されることも多い。



後藤 健生 (ごとう たけお) サッカージャーナリスト

1952年東京都出身。慶應義塾大学大学院博士課程修了(国際政治)。日本サッカーライターズ協議会理事。関西大学社会学部客員教授。64年の東京五輪以来サッカー観戦を続け、「生観戦が一番」をモットーに観戦試合数は約4400試合。ワールドカップは1974年西ドイツ大会以降、全て現地観戦。「国立競技場の100年 明治神宮外苑から見る日本の近代スポーツ」で2013年度ミズノスポーツライター賞優秀賞を受賞している。政治学博士というサッカージャーナリストとしては異色の経歴を持ち、国際関係論や政治的視点をういた独特の切り口からのサッカー史、サッカー文化考察も行っている。日本のサッカージャーナリストの先駆者の一人である。主著に『サッカーの世紀』『ワールドカップの世紀』『日本サッカーの未来世紀』『世界サッカー紀行』『アジア・サッカー戦記』『ワールドカップ』『ヨーロッパ・サッカーの源流へ』『日本サッカー史 日本代表の1990年』『ワールドカップは誰のものか』などがある。



北澤 豪 (きたざわ つよし) 元サッカー日本代表、サッカー解説者

1968年東京都出身。中学時代は読売サッカークラブ・ジュニアユースに所属。修徳高校卒業後、本田技研工業株式会社に入社。海外へのサッカー留学・日本代表初選出を経て、読売クラブ(現東京ヴェルディ)で活躍(J1リーグ通算264試合)日本代表としても多数の国際試合で活躍(日本代表国際Aマッチ 59試合)。03年現役を引退。現在は、日本テレビ系「NEWS ZERO」「シューイチ」にレギュラー出演中。人気ゲームソフト、コナミ「ウイニングイレブン」シリーズの解説も務める。また、社会貢献活動にも積極的に取り組み、サッカーを通じて世界の子ども達を支援できる環境作りを目指している。日本サッカー協会理事、日本サッカー協会フットサル・ビーチサッカー委員長、日本障がい者サッカー連盟会長、JICAオフィシャルサポーターとしてのさらなる発展・普及に向けての活動を定期的に行っている。



李 宇諤 (いうよん) 元サッカー韓国代表(アトランタオリンピック出場)、専修大学法学部准教授

1973年大韓民国ソウル市出身。韓国延世大学校体育教育学科を経て、順天堂大学大学院修士課程、日本体育大学大学院博士課程の体育科学博士号を取得。サッカーの現役の時代は、大分トリニータ、FCソウルでプレーヤーとして活躍し、韓国代表で1996年アトランタオリンピックに出場。引退後にはサッカー指導者として、2000年1月～2001年6月まで母校の延世大学校サッカー部コーチをはじめ、2001年7月～2003年3月、仙台育英学園高校サッカー部コーチ、2003年4月～2011年12月まで慶應義塾大学体育会サッカー(サッカー)部のコーチ、監督を務めて、2012年4月から専修大学法学部に入職し現在に至る。主な論文は、日本の大学サッカー選抜チームにおけるゲームコンセプトに関する検討-日・韓大学サッカー選抜戦のゲーム分析を通して-。サッカーにおける認知的トレーニングの有効性に関する研究-ボールを奪った後の攻撃局面に着目して-など。

日時：平成30年11月14日(水) 4、5限 14:50~18:00(延長あり)

場所：専修大学生田校舎10号館10301教室(参加費無料)

向ヶ丘遊園駅(小田急線)北口よりバスで約10分

問い合わせ：スポーツ研究所(sports@isc.senshu-u.ac.jp/044-911-1032)

